

学校だより 7月号

市田っ子

令和2年6月29日発行
熊谷市立市田小学校

花と笑顔とあいさつ「ありがとう」いっぱいの学校

市田小HP <http://www.ichida.ed.jp/>

子どもと共に

待ちに待った一斉登校（給食も同時に開始）が、6月22日（月）から始まり、本来の学校の姿が戻りました。保護者の皆様におかれましては、分散登校時より新型コロナウイルス対策やお弁当の準備等、ご協力いただきありがとうございました。また、拡散防止の取組につきまして、引き続きお願いいたします。

全員が揃った授業や給食、学校生活は、当然、日傘の活用、マスク、手洗い、消毒、3密の回避等の対策を施しながら進めています。その様子をホームページに掲載していますのでご覧ください。

さて分散登校の期間、子供たちと一緒に下校路を歩きました。真っ先に、地域の方々における「安全見守り隊」のご協力、ご活躍により、子供たちの安全と本校での授業や運動、友達との時間等、学校生活が成り立っていることを痛感いたしました。また、保護者やご家族の方とお話しする機会もあり、地域に見守られ、愛されている学校であると再認識いたしました。

ところで、正門で登校する子供たちを迎えていると、「おはようございます!!」と元気に挨拶する子とちょっと声が小さいかなと感じる子もいます。授業開始、終了の挨拶、体育時の号令、かけ声等は校内のどこにいても聞こえるくらい大きな声で行っているの、朝の挨拶も頑張りたいです。

大人になっても朝の挨拶は大切です。ぜひ、しっかり「朝ごはん」を食べて、出かける前に「行ってらっしゃい」「行ってきます」、学校では「おはようございます」からスタート。帰宅したら「ただいま」そして「お帰りなさい」等、元気な挨拶を学校とともに「**大人が手本となつて**」、ご支援いただけると助かります。

挨拶をはじめとする言葉は、当然毎日使います。その言葉が「温かく愛に満ちているか＝安心」、「それとも辛辣で刺さるような言葉か＝不安」で、心の進む方向（行動）が変わります。

いつも「ニコニコ顔」の市田っ子を育てたいと考えています。よろしく願いいたします。



今月の生活目標

7月生活目標

生活しよう。
友達と仲良く



「思いやりの心」

通常登校が始まって5日程経ちました。「新しい生活様式」も定着し、互いのことを気遣う市田っ子の「思いやりの心」を感じる毎日です。

「心」を育てるために、今からすぐに行に移せることがあります。次の言葉を紹介いたします。

思考に気をつけなさい それはいつか言葉になるから
言葉に気をつけなさい それはいつか行動になるから
行動に気をつけなさい それはいつか習慣になるから
習慣に気をつけなさい それはいつか性格になるから
性格に気をつけなさい それはいつか運命になるから
～マザーテレサ～

学校には、たくさんの友達があります。友達と力を合わせ協力する大切さを学んだり、友達の優しさを感じたりすることができます。「友達のことを大切に思う心」＝思いやり＝優しさ＝行動することです。学校生活の様々な場面で共に考え、「思いやりの心」を育てていきたいと思ひます。



*事務の仲村先生による「DIY」



①学校図書館のテーブルのパーテーション



②トイレ前のパーテーション 廃材をリメイク



先生方のチームワーク



給食の風景



1年生も他の学年も給食の時間が楽しみです！！



給食調理員さんのチームワーク



市田っ子が 生き生きと学び かいっぱい活動し 誰とでも仲良く できる日常生活が戻ってきました！

【学校生活で心かげていること】

〇3密(密閉・密集・密接)の回避。換気・咳エチケットの徹底。

・冷房中の換気について、冷房が効いて適切な環境を維持できる程度の隙間を開けた換気を行っています。休み時間は、窓を開放し、換気に努めています。

〇ソーシャルディスタンス(1M以上)の確保

・学級内では、最大限の距離がとれるように座席を配置しています。
・手洗い場前の足跡マークを意識させたり、教職員が声をかけたりしています。

〇手洗いの徹底

・次のタイミングでの手洗いを指導しています。

- ①外から教室に入るとき ②トイレの後 ③給食の前後 ④休み時間の前後
⑤共有のものを触る前後 ⑥他の場所から教室に入るとき

〇給食

・給食の配膳は、教員が行っています。会話を控え、机は向かい合わせにしないことをなどに留意しています。

防災について

雨の多い季節になりました。これから、夏本番を迎え、台風やゲリラ豪雨の心配も出てきます。今年の台風19号では、市田小学校も地域の方の避難所となりました。

熊谷市から出されているハザードマップを見ると、市田地区は、水害に気を付けなければならない地区にあることがわかります。

防災には、「意識」「知識」を持ち、「もの(物・者)の備え」が必要です。「水があふれそうな場所」「避難のための経路や場所」など、ご家庭でも防災について改めて話題にし、いざという時に備えていただければと思います。

